

令和 3 年度

社会福祉法人ルンビニ福社会事業計画

法人の基本理念

社会福祉法人ルンビニ福社会は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成されるよう支援することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

- ① ルンビニこども園の経営
- ② 嬉野ルンビニこども園の経営
- ③ 一時預かり事業(ルンビニこども園・嬉野ルンビニこども園で実施)

1. 教育計画

[1] 教育方針

教育・保育の理念～すべての子どもの、現在（いま）と未来の幸せのために～

- 意欲と知恵（工夫）と豊かな愛情、そして科学的、経験的な『根拠』に基づいて、子どもの幸せの実現を目指します。
- 一人ひとりを大切に、子どもの「これから生きる力」の基礎を育成します。
- 地域に根ざし、信頼される「子育て支援の拠点」となるよう努めます。

教育・保育の基本方針 ～響きあい、高めあい、ともに育ちあう～

- 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を遵守し、計画的な「環境を通して行う教育・保育」の中で、一人ひとりを大切に「養護と教育が一体となった教育・保育」を行い、子どもを主体として育てます。
- 保育教諭等は、園児との信頼関係を十分に築き、園児と共によりよい教育・保育の環境を創造するよう努めます。
- 保育教諭等は、保護者との緊密な連携の下、一人一人の特性や発達課題を的確に把握し、一人一人の発達のプロセスを尊重しながら、チームで教育・保育をすすめます。
- 保護者から意見や要望があれば真摯に傾聴し、不明なところがあれば平易に説明をして、よりよい教育・保育のために努力研鑽することを基本といたします。



環境を通して 行う 教育・保育

人的環境：子どもとの信頼関係を十分に築き、子どもが自ら安心して環境に関わりその活動が豊かに展開されるように働きかける。

物的環境：外遊びも室内遊びも、子どもの育ちに合わせて、「おもしろそう！」「やってみよう！」「楽しい！」と、子どもが主体的にかかわって楽しむ事の出来るように、ねらいを込めて、計画的に整える。そして、「どうすればもっと楽しくなるかな？」と、さらにあそびが展開されるように、子どもと共に作り上げていく。

養護と教育が 一体となった 保育

養護：子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育教諭等が行う援助や関わり
＊子どもを前にした時に優しい気持ちになり、子どもを愛しいと思い、その子を大事だと思い、その子のその都度の思いをしっかり受け止め、その存在を尊重する姿勢の総称。（慈しみ守る心の働き）

教育：子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助
＊自分が育てられて育ってきたように、子どもが少しずつ大人に近づいてきてくれることを願い、いろいろなことができるようになるようにと期待して行う様々な働きかけ。大人の一方通行の強い何かをさせる働きかけではなく、未来の大人である子どもの「大人から何かを学びとって大人に近づこう」という前向きの姿勢と結びついた働きかけ。

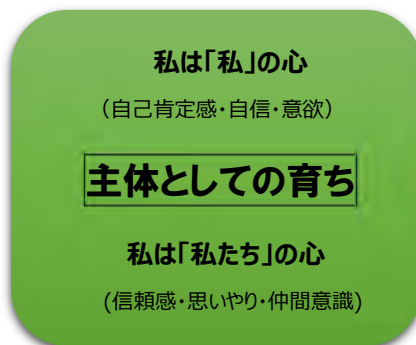
一人一人を 大切に 教育・保育

一人ひとりの行動をよく見、その思いをよく聞き、その思いに寄り添いながら援助をする。
（0・1・2 歳児の担当制保育と流れる日課、応答的な保育、共感的な言葉かけ）

教育・保育の目標

「子どもの最善の利益を考慮し、生活を通して、
子どものこれからを生きる力の基礎を育成する。」

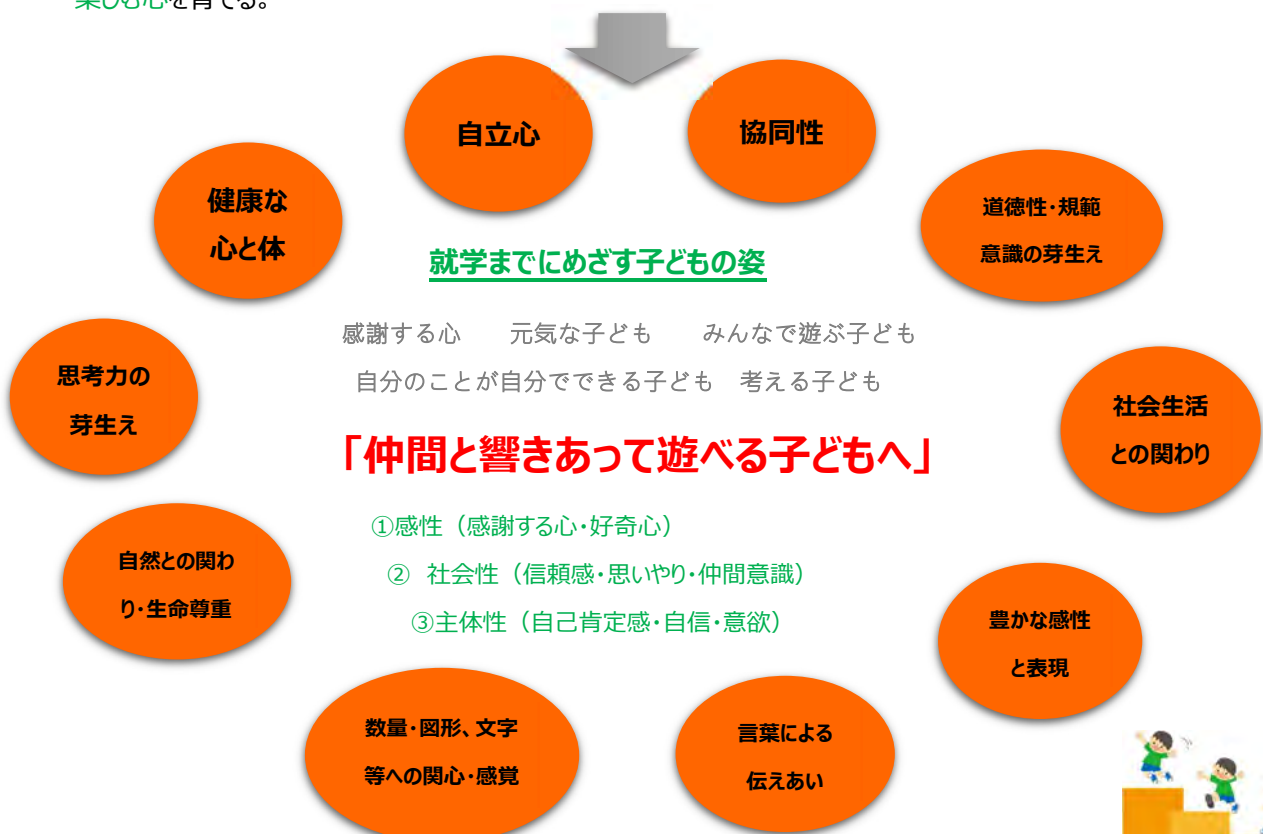
年齢別の発達課題と保育の目標



- 0 歳児：人との信頼関係の芽生えを育む
- 1 歳児：あせらずゆっくりと一人一人の育ちに寄りそって
- 2 歳児：「じぶんで！」の気持ちを大切に
- 3 歳児：なぜ？どうして？の興味や好奇心を大切に
- 4 歳児：豊かな感情体験を得るように
- 5 歳児：個と集団のよりよい関係をもつように

主体として育てる

- 配慮の行き届いた環境の下、くつろいだ雰囲気の中で、子どもの思いを受け止め、それに応えることによって、生命の保持と情緒の安定を図り、信頼感と安心の中で**自分を肯定する心(自分を大事と思う心)**を育てる。
- 健康や安全、食事、身辺自律など、生活に必要な基本的な習慣や態度を養い、**生活を楽しみ心身の健康を喜ぶ心**を育てる。
- 周りの人に関わり、仲間と仲良く遊ぶことを通して、**物事に意欲的に取り組む心、自己を主張する心、人に対する信頼や人の気持ちを尊重する心**を育て、それによって自主自立および協調の態度を養い、ともに生活する姿勢を培う。
- 身近な環境に関わる中で、生命の不思議さや大切さに気づき、**自然や社会の出来事に興味や関心を持つ心**を育てる。
- 保育者や仲間と生活するなかで、言葉への興味や関心を育て、**言葉によって自分の気持ちを素直に表現したり、相手の話を聞いたり、相手の話を理解したりする心**を育てる。
- 見る、聴く、体を動かす、絵を描く、歌う、演奏するなど、さまざまな体験を通して、**感性豊かに感じる心、表現することを楽しむ心**を育てる。



[2] 教育研究計画 ～21世紀型保育へのシフトチェンジ～

職場目標「主体的・対話的で、深い学びのできる職員集団へ」

園内研修テーマ:「同僚性～ 互いに語り学びあう」

園内保育研究テーマ:子ども理解を深める～発達や行動の意味を知る～

研修・研究計画

昨年度は、新たな職場目標「主体的・対話的で、深い学びのできる職員集団へ」を掲げ、全職員の専門性の向上を目指し、子どもの最善の利益となる援助がチームで行えるよう学びを深めた。今年度も引き続き同じ職場目標を掲げ。当園の課題である「同僚性」がさらに深まるように、園内研修テーマを設定し、日常の語り合いから研修が始まっていることを意識し学びあいを進めていく。

保育研究テーマに関しては、昨年設定した『子どもの「やりたい!」をかなえる環境デザイン』について、全職員の理解が進んだため、今年度はさらに深めて、発達や行動の意味を知り、子ども理解を深めることを目標にしていく。それぞれの研究や一人ひとりの質の向上を支えるための園としての取り組みは次の通り。

○令和3年度重点目標3つの柱

《①保育理解・子ども理解 ②チームワーク・同僚性・協働性 ③安全管理・危機管理》

保育者自身の自己評価・園全体の自己評価から導き出された当園の課題を「重点目標三つの柱」として示し、毎月4回開催の全体会議（保育会議・園内研修・食育会議・職員会議）や、ブロックミーティングやブロック会議を有効活用し、話し合い・語り合い・学びあいの場を多く持ち、課題の解決に向けての質の向上を図る。園や個人の課題などの弱みは改善に向け、園の長所などの強みはさらに伸ばす方向で進めていく。

また、新型コロナウイルス感染症流行の中、縮小されている「外部研修（オンライン）」にも多数参加し、伝達研修（報告・聞きあい・学びあい）を開催する。

○園内研修（月1回の園内研修・ブロックミーティング・ブロック会議など）の充実

- ①「すべての子どもの現在と未来の幸せのために」という法人理念の実現のため、今年度は「同僚性～互いに語り学びあう」を軸に園内研修を行い、発達や行動の意味を知り、子ども理解を深めることを目標にしていく。
- ②各ブロックでも、日々の保育の振り返り以外に、チームワーク醸成のワークを活用したり各種マニュアルや保育記事の読み合せを行うなどの「ミニ研修」を開催するなど、学びあいの機会を設ける。先輩職員は、後輩職員に対して「コーチングスキル」を使い、後輩の想いを引き出すなど、学びあいのできる土壌づくりに参画する。

○「カリキュラムマネジメント」の充実

ここ数年、「評価の方法」を、日々の「振り返りの記録」や「保育ドキュメンテーション」「ウェブマップ」など可視化した記録をもとに評価し、計画を具体的に改善していく方法をとっている。

今年度も指導計画等の見直しを行いながら、引き続きPDCA・OODA・SOAPのサイクルでカリキュラムマネジメントを行っていく。

各クラスやブロック内で継続することで評価力（子どもの姿をとらえる目・自分の姿を振り返る力・子どもの姿を予測する力等）を高め、カリキュラムマネジメントの更なる充実と保育の質の向上を図る。

○保育ドキュメンテーションの充実(全クラス):今年度より「ゴドモン」アプリを活用

「ドキュメンテーション」、子どもの遊びがどのような学びとなっているのかを可視化し、保護者に伝えていく。

職員間では互いの実践がどのような効果をもたらしたかを振り返りの材料とする。

○「異年齢児保育」の実践

少子化や核家族化など社会の変化の中、多様な年齢の人と日常的に接する機会が激減し、園ではその機会を作ることに取り組む必要があるといわれている。

当園では、一昨年度より「異年齢児保育」の重要性を考慮し、3歳以上児クラス2部屋を、3学年の異年齢で遊べるスペースに変え、異年齢児保育の取り組みを始めた。異年齢児保育と学年別の活動との兼ね合いなど課題も残すが、一日の流れ等はスムーズに進むようになり定着してきたので、今年度も取り組んでいく。

令和3年度主要行事計画

4月 入園進級式（全園児と新入園児の保護者のみ参加） 保護者総会・給食試食（未定）

5月 たけのこ収穫体験 *「親子ハイキング」は新型コロナウイルス対策のため「秋の園外保育」時に行う

6月 芋苗さし 梅漬け *「歯みがき教室」「保育参観」は新型コロナウイルス対策のため未定

7月 人形劇観劇 味噌づくり *「夕涼み会」は新型コロナウイルス対策のため中止➡園児のみ「おまつりごっこ」開催

10月 プレイデイ（3・4・5歳児+保護者） 秋の園外保育➡親子ハイキング 交通安全教室

11月 プレイデイ（0・1・2歳児+保護者） 芋ほり・焼き芋会

12月 生活発表会

2月 保育参観（全園児対象）

3月 卒園式・修了式

その他

●誕生日をお祝いする会（一人ひとりの誕生日に、クラス内でお祝いをする）

●発育測定（月1回）

●健康診断（年2回+入園時）

●フッ化物洗口（3・4・5歳児希望者）

●スイミング教室（毎週火曜日：4・5歳児希望者）

●巡回図書館（隔週火曜日：4・5歳児）

●避難消火訓練（月1回）

（年間避難計画：火災5回・地震3回・不審者侵入3回・不意打ち数回・消火訓練12回）

●栽培・収穫・お手伝い・クッキング活動（随時：3・4・5歳児）

[2] 園時表



0歳児（ちゅうりっぷ組）



1・2歳児（たんぽぽ・さくら組）



3・4・5歳児（もも・ゆり・すみれ組）



1号認定の子ども達が
登園します。

1号認定の子ども達が
降園を始めます。

2. 食育計画

食育目標：楽しく食べる子どもに

～生活リズムを整えて、食べることが楽しみな子どもをみんなで育てよう～

年齢別の目標

0 歳児：よく噛んで食べる 1 歳児：食べるリズムを整える

2 歳児：何でも食べる 3 歳児：選んで食べる

4 歳児：楽しく食べる 5 歳児：ゆったり食べる

自園調理で作る「こだわりの給食」

- (ア)栄養・バランス・彩りはもちろんのこと、季節や風土にあったメニュー作りを基本にしながら、油・砂糖・塩分を控え、和食メニューを中心に、食材の持っている自然の味を生かす工夫を行う。
- (イ)厚生労働省「日本人の食事摂取基準」に基づいて、必要な栄養素の摂取を行う。
- (ウ)食育計画に基づき、季節の旬の食材を味わって食べる「ベジタブルデー」、歯ごたえのあるメニュー多く取り入れよくかんで味わって食べる「カムカムデー」、大豆製品と旬の野菜を中心とした「マクロビオデー」などを実施する。
- (エ)発酵食品（手作りヨーグルトやもろみ納豆）を週 1 回提供する。
- (オ)地産地消を推進。（地元産の食材を直売所から購入し、調理する。）
- (カ)配慮を要する子どもへの丁寧な対応（体調不良・食物アレルギー・障がいのある子ども）

職員のチームワークで取り組む「食育活動」

- ① 発達に沿ったクッキング活動（梅つけ・おにぎりなど：こねる・丸める・ちぎる・混ぜる・焼くなど）
- ② 発達に沿ったお手伝い活動（たまねぎやとうもろこしの皮むき・こんにゃくちぎり・米洗い・・・）
- ③ 収穫した野菜を使った給食の提供
- ④ 野菜の収穫活動を楽しんでから～栽培活動へ
- ⑤ 園庭でのかまど体験（かまどごはん・かまどパン・たけのこゆで・・・）
- ⑥ 月に 1 度の「食育会議」で、評価と改善を行い、次につなげる。